



「今あなたの辞書は何ですか？」

インターネットをとりまく事件が多い今日この頃です。殺人事件にまでインターネットが影響をあたえているケースもあるぐらいですから、一昔前までは絶対わからない個人的な内容までワンクリックで見ることができます。マイナス面も多いですが、プラス面はさらに上回ります。インターネットは私もほぼ毎日利用し情報を多く得ています。そう必要な情報が簡単にスピーディーに手に入る魔法のような存在といっても過言ではないとおもいます。

1990年代のはじめ私は放送局に入社しました。その当時はラジオ番組のための情報を集めるのには今の何倍も時間がかかっていたと思います。資料を作るために図書館に行ったり、アーティストのコメントを考えるために音楽雑誌を何冊も買い込んでまとめてみたり、それがいまではその情報達はインターネットでほとんど手に入りますしそれと同時に辞書の代わりも果してくれます。まったく感謝感激雨アラレ！でこの「辞書」ということで思い出したラジオ番組のコーナーがひとつあります。

もう10年以上前になるかとおもいますが、そのコーナーとは「辞書引き選手権」という夜のワイドでおこなっていたリスナー参加型のコーナーです。内容はラジオのパーソナリティが日本語の言葉や英語のスペルを問題として出題、それを聞いたリスナーのみなさんは家にある国語辞典や英語辞典で問題の言葉を引き、電話をかけて解答を

言うというシンプルなもの。このコーナーに必要なものは『スピード』、如何に辞書を早く引けるかということが醍醐味です。これがなかなかおもしろく人気のコーナーでした。ティーンズ対象の夜の番組でしたからほとんどのリスナーがなんらかの辞書を持っています。彼らは時間になると辞書を手にラジオの前でスタンバイしてしてくれるのです。

ある時このラジオ番組のスペシャル版としてイベントが開催されました。私もスタッフとして参加しました。イベント会場には使いこんだ辞書を片手に100人近くリスナーが集まってきてくれました。イベントの後半いよいよ「辞書引き選手権」スペシャルです。会場は緊張感がただよいます。正座し目の前に辞書をおきいよいよスタート！問題発表とともにパラパラと辞書を引く音そしてものの10秒とかからぬ内に最初の解答者が辞書を片手に前のステージに走りこんできます！言葉の意味を辞書にそって読む。そして、「ウァー」という大きな歓声。一番に答えた人はまさにヒーローのようでした。非常にシンプルですが熱いイベントでした。真剣さとユーモアがまじりあったいいイベントだったと思います。

学生時代英語の先生も古文の先生もよく言っていたことのひとつが「辞書を早く引けるように」ということだったと思います。なれてくるとどのあたりにあるというのがページのバランスでわかるようになってき

つもちゃんの

ドタバタ ラジオ日記

ます。辞書には蛍光ペンや赤ペンで記しを
いれたものです。使いこんでくると表紙が
やわらかくしなしなになりページによっ
ては破けてしまいそのページをセロハンテ
ープで貼って使っていた子もいました。学
生にとって辞書は必需品でした。で・・・今
はどうでしょうか？私の今の辞書はインター
ネットであり場合によっては携帯電話であ
ったりもします。今の学生の人はどうでし

ょうか？昔のように辞書がボロボロになる
まで引いているのでしょうか？

インターネット犯罪やインターネットの
問題性が聞かれる中、学生時代の英語の辞
書をふと思い出しました。押入れの奥に今
もあると思うんです、あの辞書にはたしか
に自分の歴史が残っているなあーとスイッ
チをきれば消える情報ではない情報がある
のではと思うのです。

お す す め 取材日記

さぬき市志度の志度婦人会のみなさんが作り伝承しようとしてる「はたはた」
平賀源内さんが考案したという玩具で、一度その作り方などが途絶えていました。
紙と紐というシンプルな素材をつかったものですが、仕掛けもあり制作は簡単なよう
でなかなか難しいといえます。パソコンゲームもいいですが昔ながらの玩具を親子で
作ってみるのもいいかもしれません。



志度婦人会のみなさん



こうやってひとつひとつ作っていきます